

# 景況調査

報告書 NO. 84

令和元年 7月～ 9月 実績  
令和元年10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 令和元年度第2四半期(R1.7~9月)景況調査

1. 調査時点 令和元年9月24日~10月4日

2. 調査対象  
 (1)対象地区 蒲郡市内  
 (2)対象(回答)企業 107[100企業、7団体=三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	50 (3)	9 (2)	15 (1)	15	10 (1)	8	107 (7)

※ ( )は団体

## 5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前期比で△17.7、前期実績(4~6月△7.5)に比較すると10.2ポイントの下降・悪化の傾向が見られ、前年同期比では△14.9、前期実績(4~6月△10.3)と比較すると4.6ポイントの下降・悪化の傾向が見られた。**売上DI値**は、前期比で△12.2ポイント、前期実績(4~6月△10.3)と比較すると1.9ポイントの下降・悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△17.7、前期実績(4~6月△10.3)と比較すると7.4ポイントの下降・悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(R01.10~12月)見通し**については△9.4、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △17.7)と比較すると8.3ポイントの上昇・悪化の見込みとなった。

「**製造業**」のうち食料品は前期比では売上・収益ともに下降となったが、酷暑に影響された前年同期比では売上・収益含むすべての数値で改善の傾向が見られた。繊維物は夏物需要期で好調だった前期比では生産・売上・採算とも下降も、前年同期比では売上・収益とも横バイ。漁網・ロープ月による変動はあるが、生産量・販売数量は前年同月比で横バイから微減。増税前駆け込み需要は動きなし。鉄工のうち**工作機械関係**は全国統計で内需・外需とも前年同月比3~4割の減少続く。当地区でも前年同期・前期比で減速が続く。自動車関係消費増税前の駆け込み需要への対応もあり、トヨタの国内日当たり生産は1万3千台後半~4千台前半と堅調に推移。化学工業は国内・輸出とも堅調。プラスチックは前半は堅調に推移したものの、後半から自動車関連の受注が減少。ただし、原材料高が落ち着き、概ね前年並み。

「**建設業**」は、公共工事等も動き売上収益・総合とも上昇の反面、人手不足を訴える声も。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は<産業資材>春以降景気の減速が鮮明に。繊維製品では消費増税駆け込み需要も少なく冬物商戦へ<インテリア>7月は冷夏・雨の影響等で荷動き鈍く早期に値下・処分等を進めた。9月は増税前の駆け込み需要あり<アパレル>素材ではリネン・ラミー(ミックス麻)関係、綿麻に動きが見られた。

「**小売業**」は、消費意欲に力強さが戻らず、売上・収益・総合ともに悪化の状況となった。飲食は夏休みシーズンの家族や団体利用もあるシーズンで、対前年比で売上の上昇をあげる声もあった。時間帯では、お昼に比べて夜が少ない状況に変わりはない。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物)は米中貿易摩擦長期化・中国鉱工業生産の伸び悩みによる供給超過で上値が重く50ドル台半ばで推移。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**今期の宿泊者数は前年比1割前後の減少。梅雨明けの遅れ、台風など天候不順もあり海水浴も苦戦。働き方改革で9月に休館する施設もあり宿泊者数・売上とも減少。

「**運輸通信業**」貨物輸送では完成車輸出は、主に北米向けの減少で月1万台を割り込んだまま。海上コンテナ貨物輸出は中国向け中心に好調維持。鋼材移入も月間1万t以上の好調維持。旅客関係では夏休み・シルバーウィーク期間を含む7~9月期は概ね前年並み。

**設備投資状況**は、41事業所(60件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は31事業所(48件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では売上の停滞・減少、利幅の縮小、人手不足、人件費の増加、原材料(燃料)高が項目別で上位を占めていた。

**当地区において** 第2四半期は前年同期、前期比でほぼ全ての数値が水面下。業種別では工、化学・プラスチック等が苦戦。好調を維持してきた**工作機械関係**が中国景気停滞の影響もあり減速が続く。経営上の問題点でも売上、利幅の減少を訴える声が多く、地方における個人消費の停滞感が続き、景気全体に減速感があり。本所アクションプランを総括する年度に入り、地域経済

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

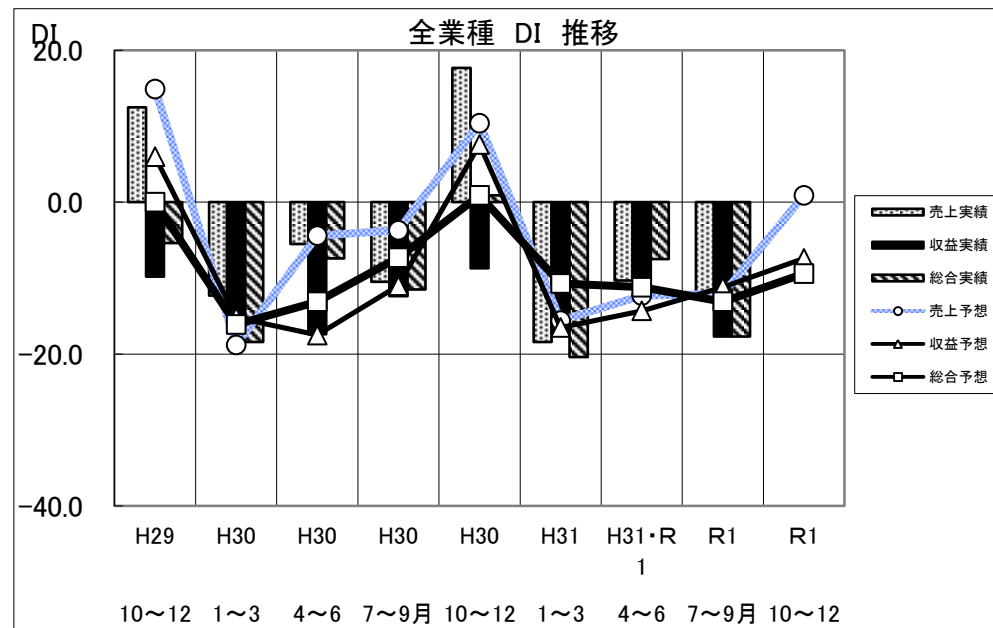
<全業種の増速期別所存である。>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月~9月 に比べて	前期比 平成31年4月~令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月~12月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-13.1	-12.2	0.9	H30.7~9月実績	-1.9	-10.5	-16.2	-12.4	-12.4	-11.5	0.9
②製品・商品在庫	-12.2	-13.1	-9.4	H30.10~12月実績	6.8	17.7	-11.7	-8.7	-6.8	0.9	-10.7
③資金繰り	-2.9	-9.4	-2.8	H31.1~3月実績	-8.1	-18.4	-15.3	-17.3	-14.3	-20.4	-11.2
④採算(収益)	-16.8	-17.7	-7.4	H31.4~R1.6月実績	-12.1	-10.3	-14.0	-10.3	-10.3	-7.5	-13.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-3.8	0.0	-1.0	R1.7~9月実績	-13.1	-12.2	-16.8	-17.7	-14.9	-17.7	-9.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.9	-17.7	-9.4								

【総合判断】

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H31.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	12.5	-12.3	-5.5	-10.5	17.7	-18.4	-10.3	-12.2	0.9
収益	-9.8	-15.0	-17.4	-12.4	-8.7	-17.3	-10.3	-17.7	-7.4
総合	-5.4	-18.4	-7.4	-11.5	0.9	-20.4	-7.5	-17.7	-9.4

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

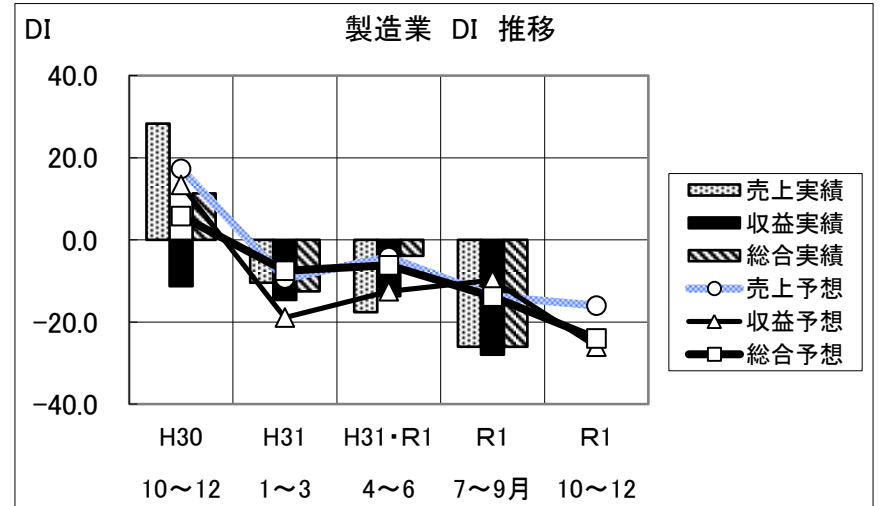
売上DI値は△26.0、前期実績(4～6月期 △17.6)に比して8.4ポイントの下降、収益DI値は△28.0、前期実績(4～6月期(△13.7)に比して14.3ポイントの下降、総合判断DI値は△26.0、前期実績(4～6月期(△3.9)に比して22.1ポイントの下降と、売上・収益・総合とも下降の状況となった。

向こう3カ月の見通し 売上はDI値の上昇は見込まれるも、いずれの数値も水面下の厳しい見通しとなっている。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-12.0	-26.0	-16.0
②製品・商品在庫	-12.0	-10.0	-8.0
③資金繰り	-2.0	-14.0	-10.0
④採算(収益)	-14.0	-28.0	-26.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	6.0	-2.0	-6.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-26.0	-24.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	28.3	-10.4	-17.6	-26.0	-16.0
収益	-11.3	-14.6	-13.7	-28.0	-26.0
総合	11.3	-12.5	-3.9	-26.0	-24.0

### [食料品]

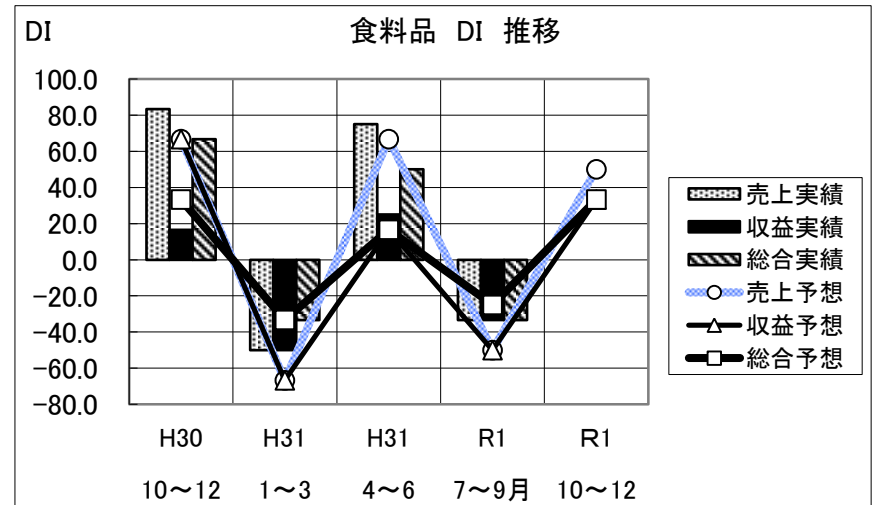
売上は前期比DI値は△33.3と下降、前年同期比ではDI値50.0と上昇。収益では、前期比DI値で△33.3と下降、前年同期比では△33.3と下降。総合判断では前期比DI値は66.7と上昇、前年同期比ではDI値66.7と上昇。前期比では売上・収益ともに下降となったが、酷暑に影響された前年同期比では売上・収益含むすべての数値で改善の傾向が見られた。

向こう3ヶ月の見通し 年末の繁忙期にむけて売上DI値50.0、収益DI値33.3、総合判断DI値33.3と業況は上昇する見通しである。いかに消費者ニーズを掘り起こす商品を提供できるかが課題であり、愛知県産小麦やアサリ・深海魚等の特徴的な水産物、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

### (食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	-33.3	50.0
②製品・商品在庫	16.7	16.7	16.7
③資金繰り	33.3	-33.3	16.6
④採算(収益)	66.7	-33.3	33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	16.7	33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	66.7	-33.3	33.3



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	83.3	-50.0	75.0	-33.3	50.0
収益	16.6	-50.0	25.0	-33.3	33.3
総合	66.7	-33.3	50.0	-33.3	33.3

## 【織物】

夏物需要期で好調だった前期比では生産・売上・採算とも下降も、前年同期比では売上・収益とも横バイ。多重織りガーゼの受注にも一服感がある。インテリア向けジャカードカーテンは深刻な状況が続き、産業資材も苦戦している状況。

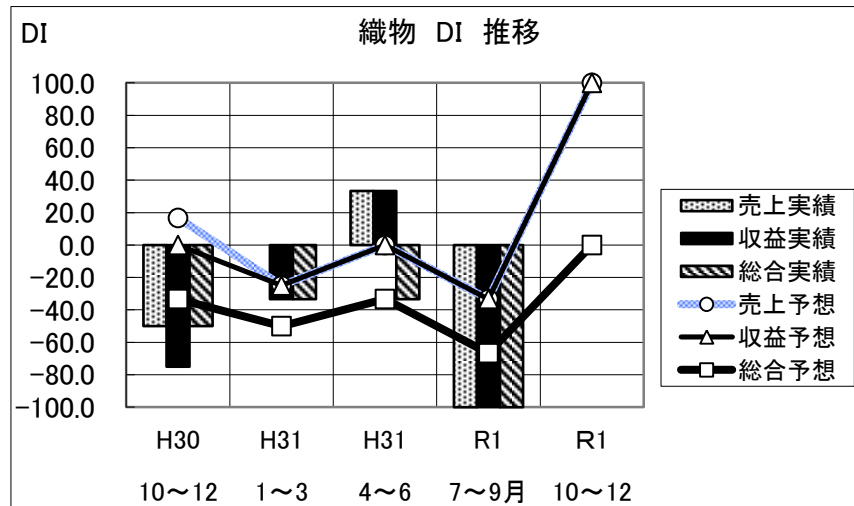
### 向こう3カ月の見通し

冬物の需要期で売上・収益は改善の見込み。多重織りガーゼについては一定量の受注が見込まれるも、海外も含めて競合が増えつつあり総合的には厳しい状況。

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-100.0	100.0
②製品・商品在庫	-100.0	-100.0	-100.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-100.0	100.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-100.0	-100.0	0.0



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-50.0	0.0	33.3	-100.0	100.0
収益	-75.0	-33.3	33.3	-100.0	100.0
総合	-50.0	-33.3	-33.3	-100.0	0.0

## 【漁網・ロープ】

月による変動はあるが、生産量・販売数量は前年同月比で横バイから微減。増税前の駆け込み需要に関して目立った動きはなかった。

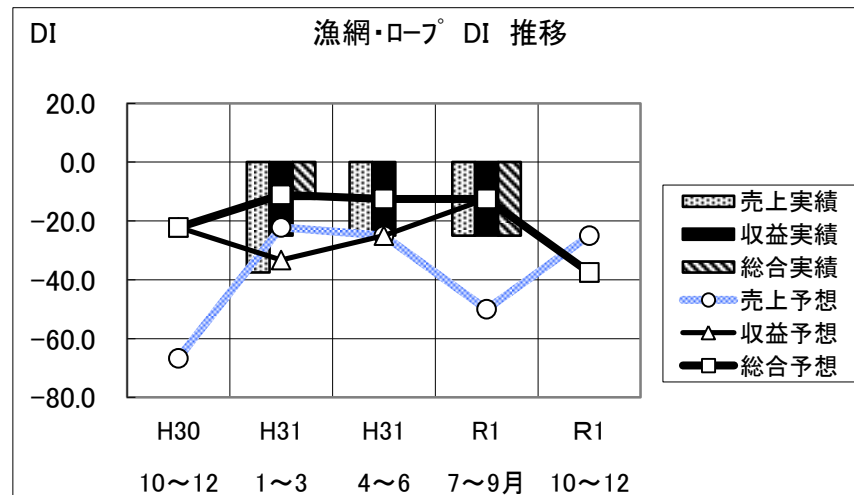
### 向こう3カ月の見通し

全体的に景気停滞感が続いている。特に漁業資材は悪く、造船船舶は横バイ。産業資材その他は例年並み。(繊維ロープ部会)

### (漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-25.0	-25.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-12.5
③資金繰り	0.0	0.0	-12.5
④採算(収益)	-12.5	-25.0	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-25.0	-37.5



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	0.0	-37.5	-25.0	-25.0	-25.0
収益	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	-37.5
総合	0.0	-12.5	0.0	-25.0	-37.5

## [鉄工]

<工作機械関係> 日本工作機械工業会の受注総額(内需・外需)では、7月1,012億円、8月884億円、9月989億円。内需・外需ともに前年同月比で3~4割の減少が続く。当地区においても前年同期・前期比で売上はじめ各指標が悪化し、好調を維持してきた業界の減速が続く。向こう3カ月の見通し米中に加え日韓の摩擦も長期化の様相を呈し、引き続き厳しい状況が続く見込み。<自動車部品関係>消費増税前の駆込需要への対応もあり、トヨタの国内日当たり生産は1万3千台後半~4千台前半と堅調に推移。車種では新型SUVやミニバン等が好調を維持。向こう3カ月の見通しトヨタの国内日当たり生産は1万2千台後半~3千台まで勢いを緩めるが、駆込需要の反動は限定的との見方も根強い。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月~9月 に比べて	前期比 平成31年4月~令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	-36.3	-27.3	-22.7
②製品・商品在庫	-13.6	-9.1	-13.6
③資金繰り	-9.1	-13.6	-13.6
④採算(収益)	-40.9	-31.9	-40.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-13.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.9	-40.9	-45.5

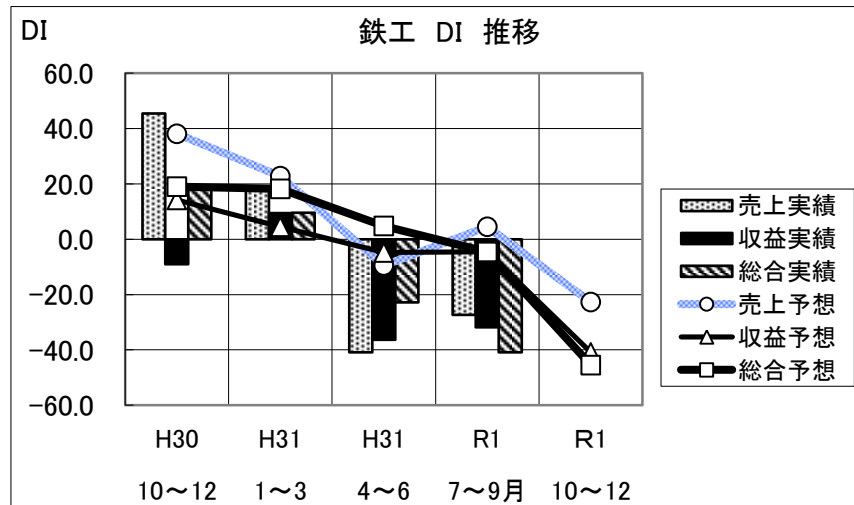
## [化学・プラスチック]

<化学工業> 国内・輸出ともに堅調であった。向こう3カ月の見通し中国市況に左右されるため、推移を注視。

<プラスチック>前半は堅調に推移したものの、後半から自動車関連の受注が減少。ただし、原材料高が落ち着き、概ね前年並み。向こう3カ月の見通し自動車関連の動きが鈍く、受注確保は厳しい見通し。原材料価格は落ち着きのため、経費削減で利益の確保を目指したい。(化学部会)

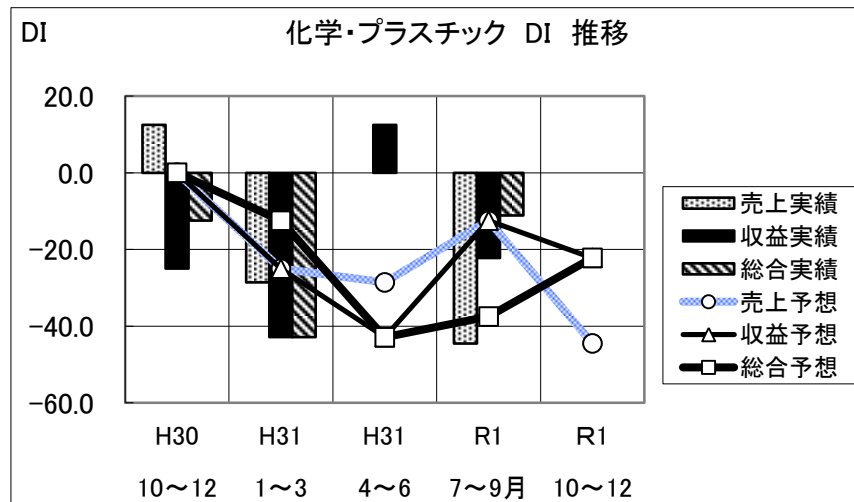
### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月~9月 に比べて	前期比 年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月~12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-44.5	-44.5
②製品・商品在庫	-11.1	-11.1	0.0
③資金繰り	-11.1	-22.2	-22.2
④採算(収益)	-11.1	-22.2	-22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	22.2	-11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-11.1	-22.2



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	45.4	19.1	-40.9	-27.3	-22.7
収益	-9.1	9.5	-36.4	-31.9	-40.9
総合	18.2	9.6	-22.8	-40.9	-45.5



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	12.5	-28.6	0.0	-44.5	-44.5
収益	-25.0	-42.9	12.5	-22.2	-22.2
総合	-12.5	-42.9	0.0	-11.1	-22.2



## 建設業

売上DI値は33.3、前期実績4～6月期(△57.1)に比して90.4ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績4～6月期(△14.3)に比して14.3ポイントの上昇、総合判断DI値は11.1、前期実績4～6月期(△14.3)に比して25.4ポイントの上昇。公共工事等も動きだし、売上収益・総合とも上昇となった反面、人手不足を訴える声もあった。

向こう3カ月の見通し 売上は上昇、収益・総合ともに上昇・改善の見込み。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	11.1	33.3	11.1
②製品・商品在庫	0.0	0.0	11.1
③資金繰り	-11.1	-11.1	0.0
④採算(収益)	-11.1	0.0	22.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-22.2	11.1	22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	22.2	11.1	33.3

## 卸売業

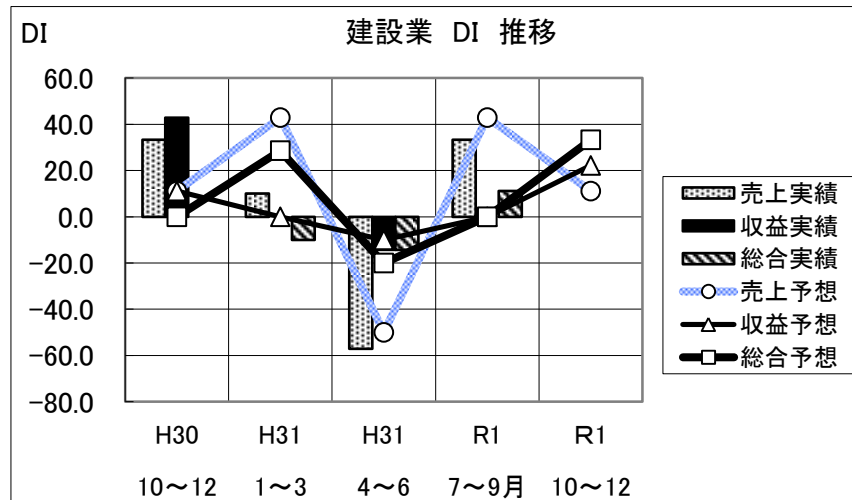
売上DI値は△13.3、前期実績4～6月期(33.3)に比して46.6ポイントの下降。収益DI値は△6.7、前期実績4～6月期(0.0)に比して6.7ポイントの下降、総合判断DI値は△33.3、前期実績4～6月期(△6.6)に比して26.7ポイントの下降。全体的な景気の低迷もあるが、初夏の気温が上がりきらず、荷動きの鈍さが響き前年同期比・前期比ともに数値の悪化が見られた。一部では消費増税前の駆け込み需要も見られた。

向こう3カ月の見通し 秋冬物の最盛期に入り、収益は横バイも売上の増加が見込まれる。

## 卸売業

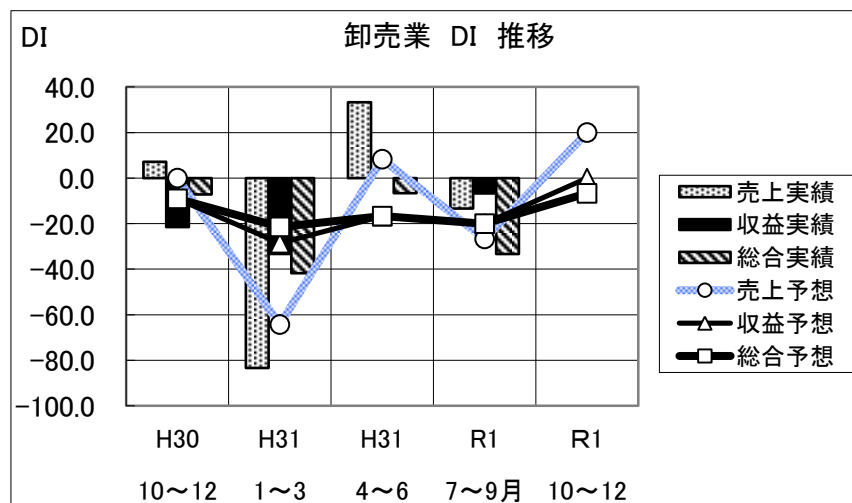
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-46.6	-13.3	20.0
②製品・商品在庫	-40.0	-46.7	-33.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-26.6	-6.7	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-13.3	6.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-6.7



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	33.3	10.0	-57.1	33.3	11.1
収益	42.9	0.0	-14.3	0.0	22.2
総合	0.0	-10.0	-14.3	11.1	33.3



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	7.2	-83.3	33.3	-13.3	20.0
収益	-21.5	-33.3	0.0	-6.7	0.0
総合	-7.2	-41.7	-6.6	-33.3	-6.7

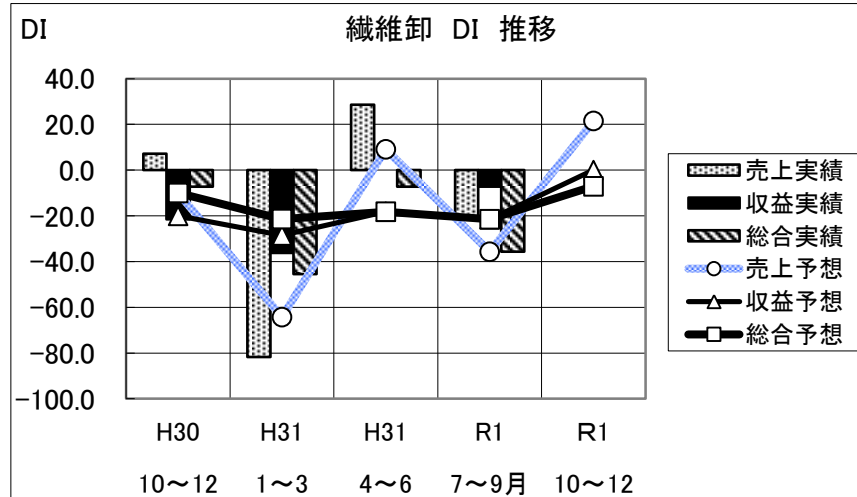
## 【繊維卸】

＜産業資材＞春以降、米中貿易摩擦による影響もあっては景気の減速が鮮明に。繊維製品では10月の消費増税による駆け込み需要も少なく恩恵を受けることなく冬物商戦に入ろうとしている。向こう3カ月の見通し 消費低迷の中、冬物商戦の活気も乏しく先の見えない厳しい状況。顧客の要望に応えらる提案とものづくりを国内でスピーディーに進めたい。＜インテリア＞冷夏・雨の影響等で夏物の動き鈍く、早期の値下・処分等を進めた。9月は増税前の駆け込み需要で昨年を上回った。向こう3カ月の見通し9月の駆け込み需要の反動で10月は昨年を下回る可能性が高い。12月は例年並みを見込む。＜アパレル＞素材ではリネン・ラミー（ミックス麻）関係は供給量が少なく需給バランスにより先まで受注が入っている。綿麻にも動きが見られた。向こう3カ月の見通し 素材ではオーガニックの複合素材（オーガニックコットン×再生レーヨン）の動きが良い。輸出向けはコンスタントな受注を見込む。（繊維部会）

## （繊維卸）

（DI 単位：%）

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-42.9	-21.5	21.5
②製品・商品在庫	-42.9	-50.0	-35.7
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-28.6	-7.2	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-14.3	7.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-35.7	-35.7	-7.1



## ＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	7.2	-81.8	28.6	-21.5	21.5
収益	-21.5	-36.3	0.0	-7.2	0.0
総合	-7.2	-45.5	-7.2	-35.7	-7.1

## 小売業

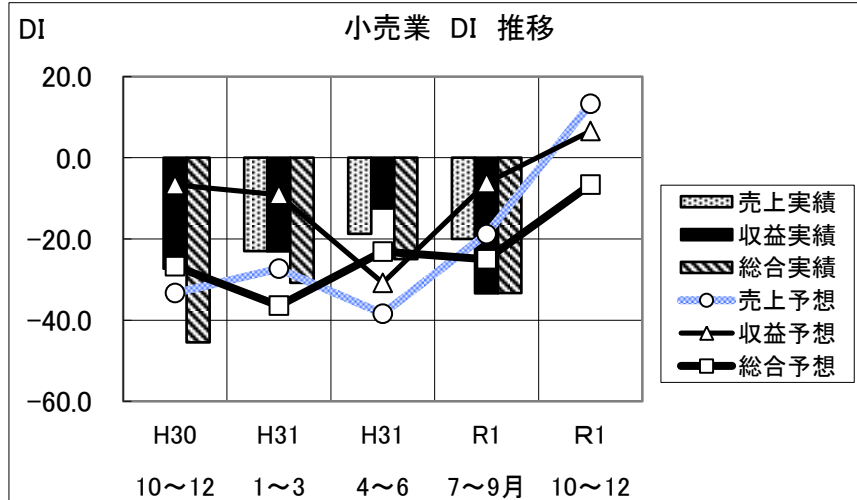
売上DI値は△20.0、前期実績4～6月期(△18.7)に比して1.3ポイントの下降。収益DI値は△33.4、前期実績4～6月期(△12.5)に比して20.9ポイントの下降、総合判断DI値は△33.3、前期実績4～6月期(△25.0)に比して8.3ポイントの下降。消費意欲に力強さが戻らず、売上・収益・総合ともに悪化の状況となった。

向こう3カ月の見通し 消費増税の反動も見込まれるが、年末の繁忙期を迎えて売上・収益は上昇の見通しとなっている。消費者の節約志向は続いており、（商業部会）

## 小売業

（DI 単位：%）

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-26.6	-20.0	13.3
②製品・商品在庫	-20.0	-13.3	-20.0
③資金繰り	-26.7	-20.0	0.0
④採算(収益)	-40.0	-33.4	6.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-13.3	-13.3	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-26.7	-33.3	-6.6



## ＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	0.0	-23.0	-18.7	-20.0	13.3
収益	-27.3	-23.1	-12.5	-33.4	6.6
総合	-45.5	-30.8	-25.0	-33.3	-6.6



## [飲食]

夏休みシーズンの家族や団体利用もあるシーズンで、対前年比で売上の上昇をあげる声もあった。時間帯では、お昼に比べて夜が少ない状況に変わりはない。

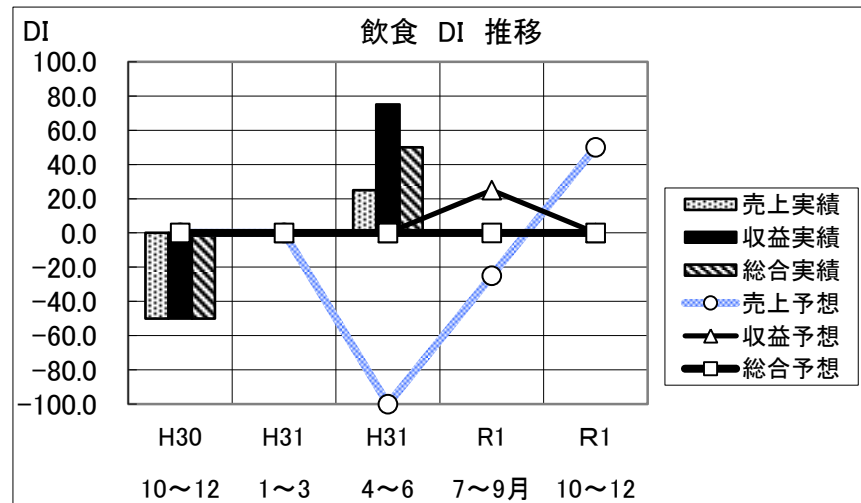
向こう3カ月の見通し 全体的にはあまり大きな変化はない見込みだが、忘年会等の団体客が増える時期で、「地魚の日」など付加価値を生みたい。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	0.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	50.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	100.0	0.0	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-50.0	0.0	25.0	0.0	50.0
収益	-50.0	0.0	75.0	0.0	0.0
総合	-50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

## [石油等その他小売]

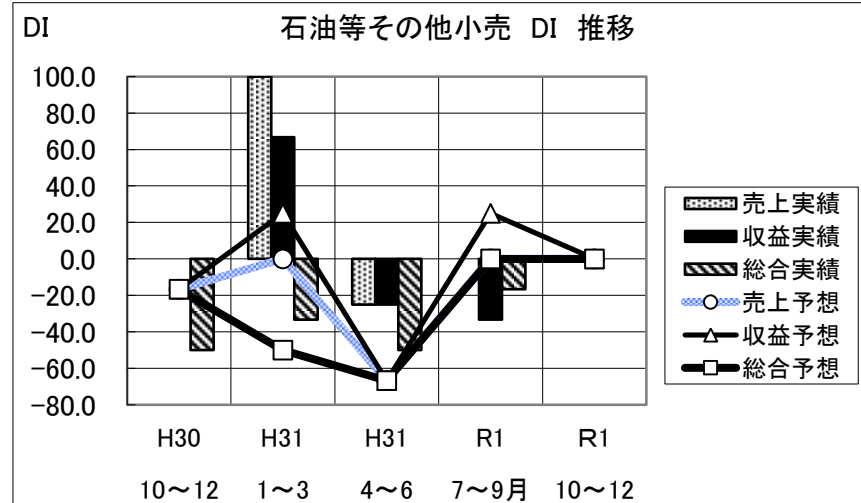
原油価格(WTI 期近物)はOPEC協調減産の継続やイラン情勢の緊迫化を背景に一時1バレル61ドル台まで上昇したが、米中貿易摩擦の長期化や中国鉱工業生産の低い伸びによる供給超過もあり、50ドル台中～後半で推移している。

向こう3カ月の見通し 世界経済の減速や米中対立の長期化による需要減退懸念が強く、上値の重い展開が予想される。(エネルギー部会)

### (石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	0.0	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-16.7	16.7
④採算(収益)	-50.0	-33.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.7	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	-16.6	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	0.0	100.0	-25.0	0.0	0.0
収益	0.0	66.7	-25.0	-33.3	0.0
総合	-50.0	-33.3	-50.0	-16.6	0.0

サービス業

売上DI値は10.0、前期実績4～6月期(△10.0)に比して20.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績4～6期(0.0)に比して横バイ、総合判断DI値は10.0、前期実績4～6期(0.0)に比して10.0ポイントの上昇と、売上・総合は上昇、収益は横バイの状況。

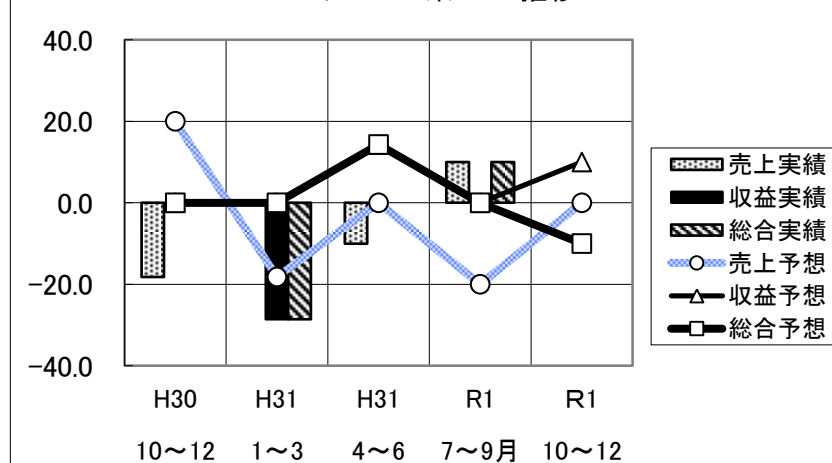
向こう3カ月の見通し 売上は横バイ、収益は上昇も、総合はやや水面下の慎重な見通しとなっている。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	10.0	10.0	0.0
②製品・商品在庫	10.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-10.0	10.0
④採算(収益)	-10.0	0.0	10.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	10.0	10.0	-10.0

サービス業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	-18.2	0.0	-10.0	10.0	0.0
収益	0.0	-28.6	0.0	0.0	10.0
総合	0.0	-28.6	0.0	10.0	-10.0

【旅館】

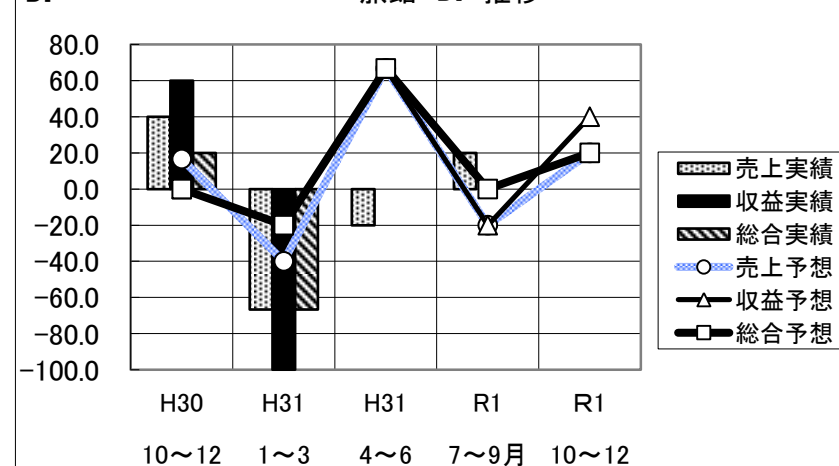
今期の宿泊者数は前年比1割前後の減少。梅雨明けの遅れ、台風など天候不順もあり海水浴も苦戦。働き方改革で9月に休館する施設もあり宿泊者数・売上とも減少。インバウンドでは、中国は人民元安の影響で団体ツアーが苦戦。韓国は当地域への来訪が元々少なく大きな影響はなし。ラグビーW杯関連で名古屋・豊田エリアから流れた宿泊もあった。向こう3カ月の見通し 10月以降の予約状況は厳しい状況。消費増税の影響は感じる。多様化・小グループ化で減少する忘年会だが例年並みを期待し営業に注力したい。秋は、じゃんだらりん・くらふとフェア・深海魚まつりなど多くのイベントがあり、しっかり魅力発信したい。また「地魚」の取り組みが盛り上がっているが飲食店に加え旅館業へも広めたい。継続が重要なので積極的に参加・協力したい。旅館ではカード払いも多いため、キャッシュレスポイント還元には対応したい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	20.0	20.0
②製品・商品在庫	20.0	0.0	0.0
③資金繰り	20.0	0.0	40.0
④採算(収益)	20.0	0.0	40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	0.0	20.0

旅館 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	40.0	-66.7	-20.0	20.0	20.0
収益	60.0	-100.0	0.0	0.0	40.0
総合	20.0	-66.7	0.0	0.0	20.0

## 運輸通信業

売上DI値は12.5、前期実績4～6月期(12.5)に比して横バイ、収益DI値は12.5、前期実績4～6月期(Δ12.5)に比して25.0ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0、前期実績4～6月期(0.0)に対して25.0ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに上昇・改善となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに上昇を続ける見通しである。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	12.5	12.5	37.5
②製品・商品在庫	12.5	0.0	12.5
③資金繰り	37.5	25.0	12.5
④採算(収益)	12.5	12.5	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	50.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	25.0	25.0

### [旅客・貨物輸送・水運]

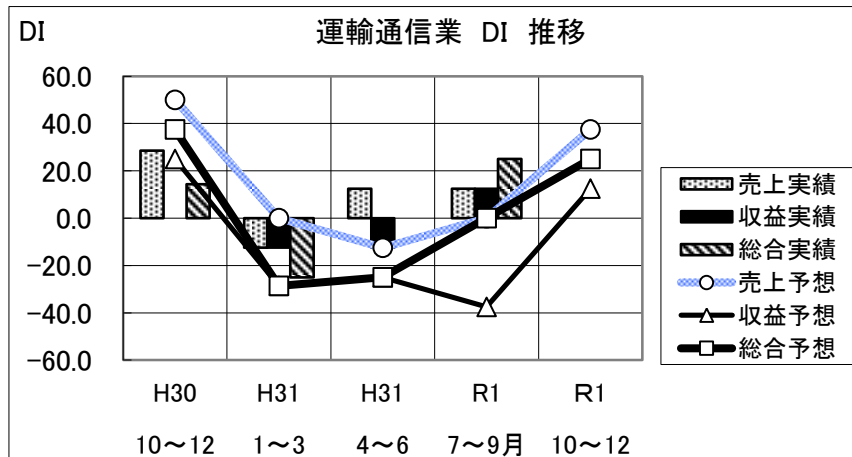
<貨物輸送> 完成車輸出は、主に北米向けの減少で月1万台を割り込んだまま。海上コンテナ貨物輸出は中国向け中心に好調を維持。鋼材移入は月間1万t以上の好調を維持。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は北米向け回復で、月1万台程度を見込む。海上コンテナ貨物輸出・鋼材移入は前期並みの好調を維持。鋼材移入は前期並みの見通し。

<旅客> 夏休み・シルバーウィーク期間を含む7～9月期は概ね前年並みの数字となった。向こう3カ月の見通し 秋の行楽シーズンを迎え昨年を超える売上を見込んでいる。(運輸交通港湾部会)

### (旅客・貨物輸送・水運)

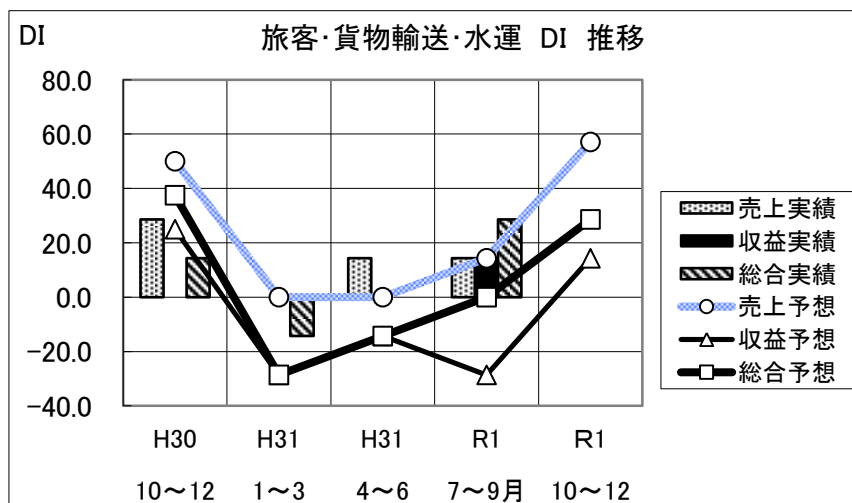
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成30年7月～9月 に比べて	前期比 平成31年4月～令和元年6月 に比べて	来期見通し 令和元年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	14.3	57.1
②製品・商品在庫	14.3	0.0	14.3
③資金繰り	42.9	28.6	14.3
④採算(収益)	14.3	14.3	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	57.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	28.6	28.6



### <業況判断DIの推移>

	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	28.6	-12.5	12.5	12.5	37.5
収益	0.0	-12.5	-12.5	12.5	12.5
総合	14.3	-25.0	0.0	25.0	25.0

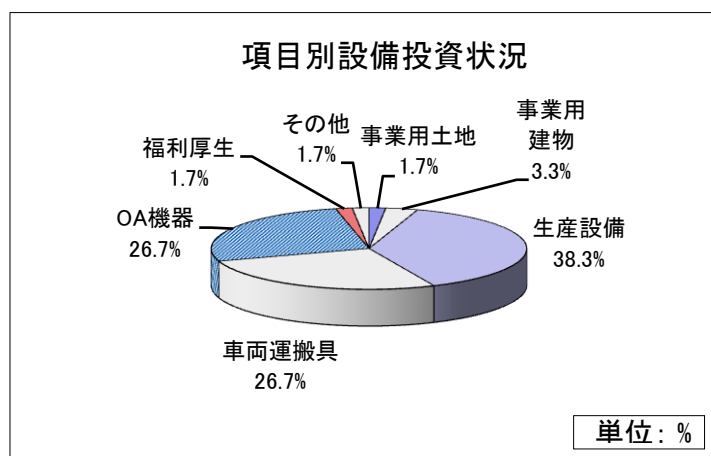
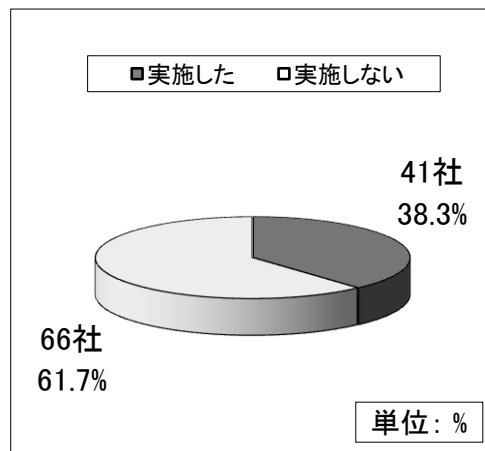


### <業況判断DIの推移>

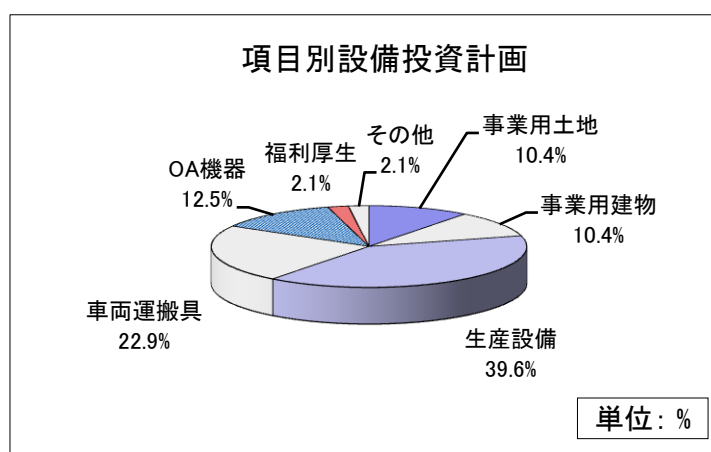
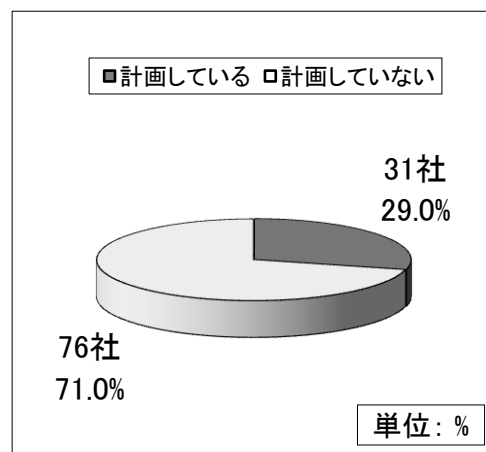
	10~12月	H30.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
売上	28.6	0.0	14.3	14.3	57.1
収益	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
総合	14.3	-14.3	0.0	28.6	28.6

## 7. 設備投資動向

＜今期(R1.7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(R1.10月～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	1	5
事業用建物	2	5
生産設備	23	19
車両運搬具	16	11
OA機器	16	6
福利厚生	1	1
その他	1	1
計	60	48

(単位:件)

◎今期(R1.7～9月)、来期(R1.10～12月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (R1.7～9月)	41	23	3	2	3	4	6
2. 来期 (R1.10～12月)	31	21	2	1	0	2	5

(単位:事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 107 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	61 57.0%
2	利幅の縮小	47 43.9%
3	人手不足	33 30.8%
4	人件費の増加	29 27.1%
5	原材料(燃料)高	25 23.4%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 50 社	売上の停滞・減少 29 社 58.0%	利幅の縮小 21 社 42.0%	工場機械店舗の狭小・老朽化 18 社 36.0%
建設業 9 社	利幅の縮小 7 社 77.8%	人件費の増加 6 社 66.7%	人手不足 4 社 44.4%
卸売業 15 社	売上の停滞・減少 10 社 66.7%	在庫過多 6 社 40.0%	利幅の縮小 4 社 26.7%
小売業 15 社	売上の停滞・減少 10 社 66.7%	競争激化 8 社 53.3%	利幅の縮小 6 社 40.0%
サービス業 10 社	利幅の縮小 6 社 60.0%	人件費の増加 6 社 60.0%	売上の停滞・減少 5 社 50.0%
運輸通信業 8 社	人手不足 6 社 75.0%	売上の停滞・減少 4 社 50.0%	利幅の縮小 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.84

番号	調査項目	単位	R01.11報告	基準日	R01.08報告	基準日	R01.05報告	基準日	H31.02報告	基準日	出典
1	人口	人	80,385	R01/10/1	80,395	H31.4.1	80,521	H31.4.1	80,513	H30.12.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,218		3,160		3,078		2,994		
2	世帯数	世帯	32,800	R01/10/1	33,029	H31.4.1	32,545	H31.4.1	32,401	H30.12.1	"
	(うち外国人)		1,614		1,585		1,537		1,470		
3	15才～65才生産人口	人	48,146	R01/10/1	48,166	H31.4.1	48,266	H31.4.1	48,306	H30.12.1	"
	(うち外国人)		2,667		2,624		2,555		2,475		
4	建築確認届出件数	件									蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	2.3	R01.6月	2.4	H31.5月	2.5	H31.3月	2.3	H30.9月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	1.9	R01.4～6月	1.6	H31.1～3月	1.8	H30.10～12月	1.8	H30.7～9月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.59	R01.8月	1.62	R01.5月	1.63	H31.3月	1.63	H30.11月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.85	R01.8月	0.99	R01.5月	1.17	H31.2月	1.30	H30.11月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より



全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比%(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2	▲ 0.5	▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	2.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.3	0.9	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	132.4	▲ 0.3	▲ 1.1	22.3
6月	210	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	203	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	212	3.1	1.37	0.2	82,242	130.7	0.1	▲ 4.6	22.3
9月	204	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	195	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	197	3.1	1.41	24.5	85,051	139.4	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	193	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	197	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	188	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	134.2	0.9	▲ 3.8	31.2
3月	188	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	197	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	210	3.1	1.49	8.6	78,481	134.3	▲ 0.3	▲ 0.1	23.7
6月	192	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	191	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	189	2.8	1.52	19.7	80,562	133.8	1.1	0.6	23.3
9月	190	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	181	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	178	2.7	1.56	5.8	84,703	142.7	0.2	1.7	25.8
12月	174	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	159	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	166	2.5	1.58	7.8	69,071	136.6	▲ 0.1	0.1	29.6
3月	173	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	180	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	158	2.2	1.60	15.3	79,539	136.2	0.2	▲ 3.9	23.6
6月	168	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	172	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	170	2.4	1.63	4.9	81,860	133.3	▲ 0.5	2.8	23.3
9月	162	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	163	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	168	2.5	1.63	4.0	84,213	142.7	0.4	▲ 0.6	27.9
12月	159	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	166	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	156	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.0	1.0	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.63	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	176	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
5月	165	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.0	0.3	4.0	24.7
6月	162	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	156	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	157	2.2	1.59	0.9	76,034			1.0	24.2
9月									34.7

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)